

# 文学部

## 文学部生のリアルな学生生活

Vol.39

文学部生のリアルな学生生活の様子を掲載し、ご父母の皆さまに文学部生の充実したキャンパスライフの風景、また文学部ならではの取り組み等の情報を発信いたします。

# 人との関わりの中かで 学ぶ、美術史とコーヒー

文学部人文社会科学科フランス語文学文化専攻3年  
神奈川県立横浜国際高等学校出身

やまぎし  
山岸くらら

3年前、高校卒業後の進路を考える中で、私は大学へ進学して美術館について学びたいと思っていました。中学のころから美術館へ行って作品や建物を見るのが好きだったためです。しかし、日本で「美術館」や「美術史」を学ぶと言くと「美大に行くの？」と聞かれることがほとんどです。もちろん美大でも学べますが、私が思い描いていたのは実践授業の隅にある座学ではありません。自分の専攻として美術史や美術館について学ぶだけでなく、言語などについても学べる大学でした。日本でそのような環境は少なく、見つけるのに少し苦労しました。

現在、私が通う中央大学文学部フランス語文学文化（以下、「仏文」）専攻の中の「美術史美術館コース（通称美美コース）」は、2017年から始まったこともあり、私がそれを知ったのは受験の約1カ月前でした。限られた候補の中で今の進路を選んだ理由は、美術館や美術について専門的に学べることと、文学部生として言語や他専攻の講義も受けられることです。候補としてはかに考えていたところには、「美学」や「社会学」「比較文化」の分野などのカリキュラムはあるものの、美術史をメインに位置付けているところはありませんでした。結果的に、今は美術史を中心に好きなことを幅広く学んでいます。3年次では週のうち4コマは美術史の講義やゼミです。この学習環境にとっても満足していますが、もちろん大変なこともあります。ここでは、所属する「美美コース」での学びについて紹介したいと思います。



ゼミでの発表の様子

美美コースでは、講義内で学んで考えたことを発表する機会が多いです。これを執筆している今も、ゼミの発表を3日後に控えています。先週もゼミでの発表があり、先月は別の講義での発表がありました。このペースにもう慣れているだろうと思われるかもしれませんが、毎回大変な思いをしています(笑)。しかし「ムリー！」と言いなながらも続けられるのは、

自分が好きな分野について学べているからだと思います。また、ほかの学生の存在も大きいです。所属する阿部ゼミでは「共同研究」を行っていて、今年は「美術と日常」という共通テーマで研究に取り組んでいます。もちろん、最終的には研究成果の発表をしますが、その前に研究テーマについて長い間議論を続けています。その議論の時間ではゼミ生みんなの存在がより大きいものとなります。1年前はデイスカッションと聞くと身構えてしまいう自分がいましたが、今はデイスカッションの楽しさを感じられるようにもなりました。自分ひとりでは得られない視点をほかのゼミ生からももらえたり、思わぬところで自分の発言から話が深まったりして、ゼミ生の数だけ研究の可能性が広がるのを感じます。逆に議論が迷走してしまふこともあります(笑)、たいていは「それ、面白いね」の連続で楽しみなながら取り組んでいます。研究テーマについて深く学べるだけでなく、誰かと一緒に研究する楽しさや難しさ、その術を学べるのが阿部ゼミです。

つい先週は、企画した美術館見学の事前レクチャーの発表があり、ほかのゼミ生から「内容が豊富で良かった！」と言って



1年の時のクラスメートと(筆者は右)



美術館にて

もらえませんでした。これも、ひとりでは成し遂げられなかった成果だと思えます。

このように、美美コースでは人との関わりの中で、広く深く美術史について考察を深めることができます。来年も新たなゼミ生が入り、美術史に関する知見がより一層深まっていくことを期待しています。

ここまで中央大学での学びについて書いてきましたが、その中で出会ってきた友人との関わりや、並行して行ってきたカフェでのアルバイトについても紹介させていただきます。

1年次は、仏文生のクラスは1クラス20人前後で講義はほとんど必修だったため、クラスの人たちはとても仲が良くなりましました。3年次からは違うコースとなった人もいますが、今でもよく会いますし、なんでも相談し合える仲です。また、私のクラスは推薦入試で入学した学生が多かったため共通の興味関心を持っている人が多く、最初から仲間意識がありました。同じクラスから美美コースへ一緒に進んだ友人もいます。先に触れたように、コースの講義が大変でもみんなで励まし合いながら乗り越えています。そんな友人たちの存在は、私にとってとてもありがたく、大きいものです。みんなに出会えてよかったと心から

思っています。卒業するのが今から寂しいほどです。

私はサークルに所属していません。しかし、大事な仲間と好きなことに熱中できるものとして、私には「アルバイト」があります。私は幼い頃からコーヒーが好きで、ずっとコーヒーについて勉強したいと思っていました。今のアルバイト先では一杯一杯手淹れでコーヒーを提供する機会があります。そして、そんなコーヒーには多種多様な風味があり、それぞれバックグラウンドがあります。それをお客様に知ってもらうためにはコーヒーの勉強が欠かせません。自分のためでもありますが、誰かのために……というのも、私の大きなモチベーションになっていると思います。

「人とのつながり」という点では、アルバイトと大学には共通点があります。どちらもひとりでは限界がありますが、ほかの人たちと関われば楽しい世界がどんどん広がっていくのです。大学生活は残り1年と少しとなりましたが、これからも人との関わりの中で学びを広げていきたいです。



コーヒー抽出の練習風景

## 文学部だより

# 文学部生の就職力について

文学部事務室 きたざわ ともこ 北澤 智子

2021年7月に着任しました北澤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

異動前の部署であるキャリアセンターでは、公務員就職支援や進路データの作成をしておりました。ご父母の関心事項のひとつである「文学部生の就職」について、今までの経験からご父母からの質問が多い項目をお伝えしたいと思います。

### ①文学部生の就職決定率は高いのか？

→学部全体で96.5%（女子は98.0%）。コロナ禍でも全国平均を上回る高い実績を誇ります。

### ②民間企業への採用実績として、特に大企業と言われるグループにどれだけの学生が就職しているのか？

→以下に企業別就職先が掲載されております。総合商社の三井物産、食品メーカーの日清食品、出版では朝日新聞社、読売新聞社など難易度が高いと言われる企業に多数の学生が就職しています。

[https://www.chuo-u.ac.jp/career/center/employment\\_data/2020/](https://www.chuo-u.ac.jp/career/center/employment_data/2020/)

### ③国家・地方公務員の就職者は多いか？ どのような行政

### 機関へ就職しているのか？

→最新の進路データにおいて国家公務員は18名（前年比160%増）、地方公務員（教員含めず）は64名（前年比206%）で、学内では法学部に次ぐ人数を輩出しています。主な就職先として、国家公務員は税関、国税専門官が多く、地方公務員は県庁職員、市区町村職員や警察官として地元に戻り活躍する学生が多いです。

### ④地方出身学生が地元企業・行政機関へ就職活動をする際のサポート体制は？

→以下に地方への就職支援についての情報がございます。  
<https://www.chuo-u.ac.jp/career/uiturn/>

文学部学位授与方針では、「卒業するにあたって備えるべき知識・能力・態度」としてコミュニケーション能力と主体性を挙げています。低年次から基礎演習で専門的学識と幅広い教養、複眼的思考を身につけ、実社会で応用し表現できる文学部生は就職に強いです。

ご父母の皆さま、ご子女は文学部で学び、自身の未来を創造しておりますのでご安心ください。新年度にあたり困りごとや不安をお持ちのようでしたら、どうぞお気軽に文学部事務室を訪ねるようお伝えください。新年度がスムーズにスタートできるよう支援いたします。

